

「大学等における遠隔授業の環境構築の加速による学修機会の確保」  
補助金再募集開始につき緊急開催

教育の質保証実践セミナー

# カリキュラムマネジメントのための 学修成果の可視化

～システム化事例から自校のアセスメント戦略を考える～

【事例】遠隔授業でも機能する学生の理解度把握に基づく質保証システム

■ 日時 9月11日（金） 第1回 13:00～15:00  
第2回 16:00～18:00

各回定員 20名

■ 場所 オンライン開催（ZOOM）

※どちらも同じ内容です。

参加費無料

■ 対象 教育の質保証に関わる教職員

（学長室、企画室、認証評価担当、教務職員、教学IR等）

認証評価第3サイクルや中教審から発表された**教学マネジメント指針**を受け、学修成果可視化システムの導入を進める高等教育機関が増えています。また、遠隔授業が実施される中でも教育の質が担保できるのかという観点からも、「**学修成果が出ているか**」へ**注目が集まり易くなる**ことが予想されます。

システム導入を一度行ってしまえば、たとえやり直したくなくなったとしても簡単に変わることが難しいものです。学修成果可視化システムを導入する際に考えておきたいポイントを整理し、「Assessor（アセスメンター）」というシステムを例に、カリキュラムマネジメントにつながるシステムの導入イメージをご紹介します。

もし、以下の兆候が表れているなら、その可視化システム導入は黄信号かも知れません

認証評価をクリアすることが目的になっている

チャートを出すことが目的になっている

厳密に可視化することにこだわろうとする

認証評価や教学マネジメント指針が本質的に求めているのは、可視化ではなく教学マネジメント体制の確立です。教育目標・カリキュラム・授業・学生指導・アセスメント・改善活動、これらが有機的に機能するための全体構造を踏まえたシステム化を行うことが成功のコツです。

主催 株式会社学びと成長しくみデザイン研究所

学修成果の可視化は、教学マネジメントを機能させるための重要な要素の一つです。特に、カリキュラムマネジメントを行うためには必須の要素であり、うまく機能させるためには押さえるべきポイントがあります。

学修成果の可視化にどう取り組み、カリキュラムの改善にどう繋がればよいのか、また、最近耳にすることの増えたディプロマサプリメントにはどう活かすことができるのか。

本研修会では、教学マネジメントを機能させるために、高等教育関係者と試行錯誤しながら進めてきた取り組みの中から、学修成果の可視化にテーマを絞って事例をご紹介します。

## セミナー内容

- ・カリキュラムマネジメントの全体イメージ
- ・直接評価と間接評価の両方があると良い理由
- ・厳密に可視化することにこだわるべきではない理由
- ・DPと科目を紐づけるのが難しく感じる理由
- ・科目単位でアセスメントすべき力
- ・科目単位でアセスメントすべきでない力
- ・汎用的技能を伸ばす上で必要なこと
- ・可視化したデータの活用法「3つの自己点検サイクル」  
【学修支援編】  
【授業改善編】  
【カリキュラムマネジメント編】
- ・教員負担の少ない運用を実現したシステム事例
- ・学生の理解度把握を学修成果の可視化につなげ、ディプロマサプリメントに活用する事例

## このような方へ

- ① 学修成果の可視化に取り組み、**ディプロマサプリメント**を整備したいが、どのようにすれば投資するだけの効果を生み出せるか見通せず、予算化できずにいる方。
- ② システムを整備しても、**各学科で活用が進む**ような合意形成を行うイメージが湧かず、学内提案に踏み切れない方。
- ③ 学修成果の可視化に取り組みするには、どの程度の費用が掛かるか、また、現状の教務システムにオプションとして導入し、**コストを抑える方法**はないか、目算を立てたい方。

### 参考情報

以下のサイトをご覧くださいと、セミナーをよりご理解頂きやすくなります。

<https://manabi-labo.co.jp/product/assessment/>



## 参加申し込み

本セミナーは ZOOM によるオンライン形式で開催します。オンライン参加が可能であることをご確認の上で、次のURLよりお申し込みください。申込された方に参加方法を後日お知らせします。

お申し込み

<https://www.manabi-labo.co.jp/seminar/01>

お問い合わせ

[info@manabi-labo.co.jp](mailto:info@manabi-labo.co.jp)



株式会社学びと成長しくみデザイン研究所は、高等教育機関における教育の質保証を実質化させるためのしくみ作りを支援しています。3000名以下の小規模校を中心に、教職員が相互に連携をとりながら、様々な取り組みを有機的に機能させるための組織開発や教学マネジメントのためのシステム基盤整備を支援しています。